

令和7年3月 行財政改革及び公共施設等特別委員会質疑資料
宮池 明

複式学級における学習指導

改訂版Ⅱ



奈良県教育委員会事務局
学校教育課

Q 2. 複式学級の長所や短所は、どのようなところですか？

複式学級の特徴から生まれる長所と短所として、次のようなことが挙げられる。

複式学級の特徴	長 所	短 所
少人数で構成されている。	・一人一人の学習状況を十分把握することができ、学習の個別化が図りやすい。 ・一人一人とじっくり向き合えて、関わりを深めることができる。 ・主体的に取り組む問題解決的な活動を展開しやすい。 ・全員に発言や発表の機会をもちやすく、表現力を付けやすい。 ・一人の考えや意見をしっかり受け入れ、取り上げることができる。 ・全員で何か一つの活動を行うことができやすく、まとまりやすい。	・人間関係が固定化され、閉鎖的になりやすい。 ・刺激が少なく、向上心を育てにくい。 ・教員が児童に手をかけすぎてしまう。 ・多人数の中で気後れしてしまうおそれがある。 ・多くの考えや意見が出にくく、広がりや深まりが見られにくい。 ・合奏や集団競技など、人数を要する活動を行いにくい。
2 学年以上児童が学級にいる。	・上学年は下学年に分かりやすく教えようとし、下学年はその姿から学ぼうとする。 ・上学年としての自覚が生まれ、児童を成長させる。 ・自ら「学ばなければ」「学ぼう」という構えができやすい。	・上学年が威圧的になったり、下学年が甘えたり萎縮したりしてしまうことがある。 ・学年の逆転現象が起きるおそれがある。

長所と短所は表裏一体のものである。複式学級のよさに目を向け、よさを最大限活用する
という教員の意識改革が最も大切である。「複式学級だから〇〇になる」というマイ
ナス思考から「複式学級だからこそ〇〇ができる」という発想への転換を図りたい。

【研究ノート】

国立教育政策研究所紀要 第149集 令和2年3月

小学校複式学級による学力スコアへの影響

The Effect on Scholastic Ability Scores through Combined Classes
in Elementary Schools

図表 2 小学校第 6 学年の学級数と平均正答率

	国語	算数
1 学級	64.2	65.7
2 学級	63.0	65.8
3 学級	63.6	66.8
4 学級	65.1	67.8
5 学級	66.4	69.1
6 学級	65.3	67.8
7 学級	60.7	64.5
8 学級以上	63.1	67.6
複式学級	67.0	68.0

注) 文部科学省「平成 31 年度 全国学力・学習状況調査」より。学校質問紙 004「調査対象日現在の第 6 学年の学級数（特別支援学級を除く）」。

8. 得られた知見⁶

冒頭に述べたように、複式学級は解消すべき課題であるという認識が一般的である。しかし本研究の知見によれば、複式学級の学力スコアへの明らかにネガティブな影響は見られない。すなわち、異学年で構成する学級で教育を受けることが、現状、ただちに学力への大きな負の影響を及ぼしているとは考えられない。この傾向は諸外国の多くの研究によっても検証されており、非常に頑健な知見であると言える。義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、一般的には不利な環境と認識されている複式学級において、現状では国語、算数の学力に負の影響が出ていないことについて確認できたことは重要である。この要因としては、複式学級のある小規模校を対象とした加配措置など重点的なリソース配分や、複式学級における指導の充実に向けた全国へき地教育研究連盟をはじめとした教育実践の蓄積など、様々な論点が考えられる。

しかし一方で、複式学級のポジティブな影響は、学校規模、学級規模等の変数を考慮すれば有意ではなくなることから、異学年で構成される複式学級が有利であるというよりも、小規模のきめ細かい指導が重要であることが明らかになっている。

また、理科のような実習的な科目については、サポートされることが想定される上級生との学びが学力にプラスであることから、上級生でなくとも教科担任など補助的な教員の加配によって学力向上への影響があることが示唆される。

～ 歴史と想いを、新しい風のにのせて～

若草山

一条通り

新しい学校のイメージ(南西上空より)

